

日頃より大変お世話になっており、誠にありがとうございます。

北朝鮮をめぐる不穏な空気が漂いはじめています。米国がどうやら北朝鮮に対して、かなりの危機感をもっているようです。

先月、**国務長官のティラーソンは、米国の「戦略的忍耐」政策は「終わった」と明言**しました。これまでの米国は、各国と連携しながら、「アメ」をぶらさげつつ対話によって、北朝鮮の暴走を止めさせようと努力をしてきました。北朝鮮が約束を破れば、経済制裁を強化するなど非軍事の「ムチ」をもちいました。

しかし、「**地道な外交を繰り返しても、結局、より脅威をもたらす北朝鮮を許しただけだった**」というのがトランプ政権の認識となったようです。そして、先月、国務長官が日本、韓国、中国に対し、この方針を伝えに飛び回っています。これを受けて、中国の李首相は「東アジアに緊張が広がり、衝突につながるかもしれない」と危機感を表し、関係国に緊張緩和を呼び掛けています。

もちろん、米国がどういう行動をとるのかは、まだ分かりません。しかし、我が国としては、**最悪の事態の覚悟と準備だけ**はすべきでしょう。

このまま北朝鮮を野放しにすれば、我が国もどんどん不利な状況に陥ります。先月号でも指摘したように、北朝鮮のミサイルを連射する技術が進めば進むほど、我が国の迎撃ミサイル体制では対応できなくなります。また、米国本土を直撃するミサイルも実現しつつある中、米国としても指をくわえていられなくなります。

つまり、**私たちに迫られている選択肢は、「現時点での紛争を回避するために、より脅威となる北朝鮮を野放しにするのか、あるいは、この時点で決着をつけるか。」**というものです。米国は、この現実を直視して、動いているのでしょう。

我が国としては、**①米国との具体的な連携を密にして、②我が国に危害が及ぶ可能性がある場合には、日米韓でどのような役割分担で国民を守るのか、あらかじめ明確にし、③ミサイル対応のみならず北朝鮮の特殊部隊が国内で行動することをどう阻止するかなど、早急に準備**をしなければなりません。

とくに②については、拉致された日本国民をどう救済するのか。この点も米国側に強く主張しなければなりません。

むやみやたらに危機を煽るつもりはありませんが、「備えあれば、憂いなし」です。